

北海道 TDM 研究会・第 41 回ワークショップ

今回、北海道 TDM 研究会では『ECLIA 法(電気化学発光法)による検査と治療薬物モニタリング』と題して、ECLIA 法を用いた免疫抑制剤の TDM について、そして広義の TDM として ECLIA 法によるプロカルシトニン(バイオマーカーの 1 つ)を指標とした抗菌薬治療について勉強するワークショップを企画いたしました。多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時： 平成 26 年 8 月 30 日(土) 15 時 00 分～17 時 00 分

会場： 北海道薬科大学サテライトキャンパス(札幌市中央区北 3 条東 1 丁目 1-1)

座長： 北海道 TDM 研究会 副会長 小林 道也

メインテーマ『ECLIA 法(電気化学発光法)による検査と治療薬物モニタリング』

第一部：『免疫抑制剤の TDM に関するトピックス』

免疫抑制剤であるカルシニューリン阻害薬は、血球タンパクとの結合率が高く、煩雑な抽出操作中の測定精度や、急性期には AUC を求めるなど迅速な測定体制も求められる。こうした状況を踏まえ、免疫抑制剤の TDM に関するトピックスについて解説する。

第二部：『抗菌薬治療とプロカルシトニン』

プロカルシトニンは、SIRS(全身性炎症反応症候群)状態から、特に細菌感染による敗血症において、ほぼ全身の細胞で産生され、CRP に比べて早期に血中濃度が上昇し、病態が寛解すると速やかに下降する。プロカルシトニンを指標とした、抗菌薬の De-escalation や入院日数の短縮など医療の効率化に関する情報について解説する。

講師： ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

サイエンティフィックソリューション部門 学術教育グループ

山田 洋一 様

※ 日本薬剤師研修センター認定シール(1 単位)の配布を予定しております

※ 日本病院薬剤師会生涯認定制度単位(2) 1 単位の認定対象です

主催：北海道 TDM 研究会、日本薬学会北海道支部

後援：北海道病院薬剤師会、札幌病院薬剤師会

【問い合わせ先】

北海道医療大学病院 薬剤部 岩尾 一生
TEL 011-778-7575
iwao@hoku-iryo-u.ac.jp

中村記念南病院 薬剤部 山田 和範
TEL 011-573-8555
k-yamada@nmh.or.jp

〈案内図〉



地下鉄東豊線さっぽろ駅 21 番出口より徒歩 3 分
地下鉄南北線さっぽろ駅 9 番出口より徒歩 6 分
JR 札幌駅南口より徒歩 10 分